伝統文化の発展と衰退

地域の伝統文化の担い手育成の課題　報告②

会報
獅子の如く
ししのごとく
京都 吉祥院六斎念仏保存会

2022年8月25日
第34号　地域版
発　行
獅子の如く編集部
獅子の如く
吉祥院六斎歴史研究会
発行責任者　木村 信彦
編　集　部　清水 美優
西片 里紗
監　　修　石田 房一
協力 吉祥院六斎保存会

戦後からの六斎活動

吉祥院六斎の活動は、戦時中、徴兵による人数不足のため、一時的に中断されたが、戦後になると再び活況を取り戻す。

その後、六斎を運営していた青年会が消滅し、一九五〇年に実質的に運営するための団体「共親会」が発足する。

共親会は、六斎のみを行う点で青年会とは趣を異にするが、構成員や基本的な運営方針は青年会当時のものをそのまま引き継がれている。

青年会と決定的に異なるのは、共親会への貢献参加が強制的ではないという点であるが、実質的には若者のほぼ全員が参加していた。

共親会に変わった後、一九五三年から三年間、円山公園公会堂で開催された「六斎念仏コンクール」において三年連続の優勝を果たしている。

共親会に移行した当時、戦前と同様に社寺や地蔵盆、祇園の大棚への勧進も行う他、コンクールの連続優勝もあって評判が高まり、地方公演やテレビ出演も行われるようになった。

六斎コンクールからの数年間が共親会の最盛期であった。

公演回数の多さもさることながら、保存会の登録者も五十人を超え、二ヶ所に分かれて六斎公演活動を行えるだけの人数的余裕があったという。

六斎公演の中でも「ひのき舞台」と言われる吉祥院天満宮大祭の奉納であった。

「まわり舞台」と言われていたのが市内及び周辺地域の地蔵盆など巡業的な意味を持ち、「ひのき舞台」に上がるための稽古の一つとして行われていた。

都市化と就労形態の変化

一九七〇年以降の吉祥院地域は、区画整理や大型商業店舗の進出、住宅地化の進展などによって急激に都市化し、就労形態にも大きく変化をもたらし、それに伴って六斎の活動にも多大な影響をもたらすことになる。

演目「岩見重太郎」

都市化に伴って地域住民が第一次産業以外に従事するようになると、例えば、農業用水路を使用するといった制度がなくなっていった。

また、多くの六斎公演活動などを行う場合はもちろんのこと、徹底した実力主義のもとで六斎の技術を習得しようとすると、ある程度の自由時間が確保できる自営業や農業でなければ六斎念仏に携わることができなかった。

さらに吉祥院地域の都市化によって、自由時間の過ごし方も多様化したということも、六斎念仏から人々が離れていくきっかけとなった。

このような状況の中で、新規加入者がいないままであった共親会の人手不足と高齢化は慢性的となり、本来「後見人」として一線を退いた人たちも上演に携わることになる。

六斎の衰退

一九八〇年代に入り会員数も大幅に減少したため、地元の青年に呼びかけ十数名が加入したが、従来の厳しい指導方法や運営に対する意見の違いなどで数名を残し脱退することになる。

一九八三年、京都の六斎念仏は京都六斎念仏保存団体連合会として、国の重要無形民俗文化財の指定を受けるが、徐々に六斎の活動が衰退傾向に陥る。

吉祥院六斎保存会「六斎奉納」

菅原組（南条）も担い手不足に陥り、会員のほとんどが六十歳以上の高齢者となるような状況になり、このような傾向が一九九〇年前半まで続くことになる。

＊＊＊＊

第35号につづく

※伝統芸能を通じて地域コミュニティをより深めていただくことを目的とした企画。地域の皆様に執筆を頂き掲載しています。

夏祭り まつりの思い出

千成食堂

夏祭り 中島 貴史さん

京都市南区吉祥院御池町30番地の4　☎ 075-672-0959

今回、この原稿を書くにあたり、吉祥院天満宮のお祭りのことを思い返してみました。

笛、鉦、太鼓と獅子舞があり、なぜか最後に白いテープのパフォーマンスがあったような…。

子どもの頃お祭りに行ったものの、夜店やそこで一緒になった友達との遊びに夢中になっていたからか、正直、あまり覚えていないことに気付かされました。

筆が進みそうでない危機感を感じた私は、小学校からの友人何人かに吉祥院天満宮のお祭りや六斎念仏のことを覚えているか聞いてみました。すると、その内一人が小学校の頃に、私たち兄弟と一緒に十五歳の時に他界した私の母に連れて行ってもらった記憶があるとのことでした。

演目　獅子と土蜘蛛

段に乗った獅子舞いの様子や蜘蛛が獅子に対して蜘蛛の糸を投げるところが見どころで、私の母親からの説明も手伝って、とても見応えがあったとのことでした。

その友人の記憶でも私たち兄弟は、やっぱり六斎念仏より、夜店や遊びに夢中であったとのことでした。

数年前に自分の子どもと一緒にお祭りに行きましたが、夜店に気を取られてばかりで、親子共々その点は変わりないと笑い話しになりました。

獅子に対して投げられた蜘蛛の糸を観客の方々が取りに舞台に迫っていた話しも聞き、そういやそんなこともあったかなと思い出してきました。

この原稿を書くにはあまりに覚えていないため、恥ずかしくなりますが、自分の子どもを連れて、またお祭りに行ってみようと思いました。

最後に、当時の母のこともうかがえた良い機会になりました。

ありがとうございました。

千成食堂（せんなりしょくどう）

千成食堂は、西大路十条上るイオン洛南ショッピングセンターのすぐ北側にあるおかしながらの懐かしさを感じる食堂です。

お値段もお手軽、品数も豊富うどん、そば、千成定食、日替わり定食、助六セットの他、いなり寿司、巻き寿司、おはぎもあり、物足りない方は、一品追加してみてはいかが…。

注文を受けて、素早くお客様に提供することを心掛けておられるそうです。

お店のおすすめは、日替わりの「千成定食」で、ちなみに一番の人気メニューは「カレーうどん」とのこと。

ご主人の人柄が良いし、お店も清潔感があり、安心して食事を楽しめます。

帰りに奥様の手作りクッキーをお土産にしてみてはいかがでしょう！

■営業時間
十一時から
十五時
十七時から
二十時半

■定休日
日曜・祝日

なお新型コロナウイルス感染拡大により営業時間及び定休日が記載と異なる場合があります。

ご来店前にお店に確認してください。

コロナ禍で三年間六斎奉納中止
技術継承に危機感募る

新型コロナウイルス感染拡大の影響で六斎奉納が三年中止を余儀なくされた。本来ならば、吉祥院天満宮の境内が大勢の人で賑わうのだが…。

吉祥院六斎保存会の関係者からも「技術といった伝統の継承の確保が心配」と言う。

二、三年は、千年の歴史からすればわずかな時間だが、吉祥院六斎保存会にとっては貴重な時間である。木村俊典保存会長も伝統の継承に危機感を募らせている。

第七波…コロナ感染者数が増加しており、八月二十五日夏季大祭の六斎奉納は大丈夫だろうか。